

本應寺

1586年に建てられた本應寺は、浄土宗に属しています。正門（山門）の両側には守護神の石像が2体立っており、来訪者を迎え、悪の侵入を防いでいます。門は大きな寺院の鐘を収容するために建てられましたが、1つは設置されませんでした。

門の内側の最初の建物は、金箔で豪華に装飾された内部のメインの礼拝堂（本堂）です。本堂には、浄土の仏である阿弥陀如来の像があり、彫刻家によって彫られ、地元塩田津の素材が使われています。

境内には俳人松尾芭蕉（1644–1694）の記念碑があります。芭蕉はこのお寺を訪れたことはありませんが、この記念碑は地元のファンによって建てられました。

本堂の左手にあるのが小ホール。江戸時代には、長崎街道を往来する武士やその護衛がここに宿泊していました。この建物は現在も子供たちに茶道などの伝統文化の一端を教える場所として利用されています。